



茨城大学 技術職員にインタビュー

——まずは、それぞれの業務内容について教えてください。

岡田 茨城大学は、水戸・日立・阿見のキャンパスにある大学施設に加えて、附属の小学校や中学校、特別支援学校、幼稚園などの多様な施設があります。それぞれ特色のある施設の整備を通して、学生、生徒、児童や教職員が安心して教育を受けたり、研究を行える施設を整備して環境を維持する——それが、私たち技術職員の大切な役割です。日常のメンテナンスはもちろん、工事を行う際には、大学施設の設計から積算、入札、施工管理までを一貫して担当します。国の補助金を活用した工事も多く、予算要求の段階から携わります。現在は課長補佐として、現場を支えながら若手職員への技術指導やチームマネジメントにも力を注いでいます。



平成31年度採用

茨城大学 財務部施設課
課長補佐(整備保全担当)

岡田 行由 オカダ ユキヨシ

染宮 私は大学内の施設全般の維持管理を担当しています。日々寄せられる依頼の中には、「水が噴き出した」「ドアが開かない」といった急なトラブルもあります。現場に駆けつけ、その場で対応したり、必要に応じて業者と連携し修繕を進めたりと、臨機応変な判断が求められます。また、新しい実験機器の導入に合わせてコンセントの増設を検討するなど、研究環境の整備にも関わります。大きい案件では、建物一棟の全面改修を設計段階から完成まで担当します。大学の技術職という、裏方のような印象を持たれるかもしれませんが、実際はキャンパスの“いま”を支える最前線の仕事だと感じています。

——これまでの業務の中で、特に印象に残っている仕事を教えてください。

岡田 一つは、附属小学校の給食室改修です。約40年前に建設された施設の老朽化対策と現行の学校給食衛生管理基準を満たすための改修工事でしたが、当初は増築工事で検討していました。しかし、増築には建設費だけでなく、その後の維持管理費もかかるため、既存の図書館などを給食室へ改修することとなりました。水回りのない場所に多くの配管を通す必要があり、床下の勾配をどう確保するかなど課題も多かったのですが、無事に完成したときの達成感は格別でした。「子どもたちに美味しい給食を提供できています」との声をいただいたときには、胸が熱くなりました。また、日立キャンパスの工学部改修では「研究室を一定の湿度と温度に保ちたい」「天井高を上げたい」など、先生方から細かな要望を数多くいただきました。建物一つを整備するにも、多くの人の想いがあります。それを最適な形にまとめていくことに、この仕事の面白さを感じます。そして、その積み重ねが大学の“かたち”をつくっていくのだと思います。

染宮 私は入職2年目、東日本大震災の直後に担当した図書館の改修と増築工事が印象に残っています。更地から

少しずつ建物が立ち上がり、完成に至る過程すべてに関わられたのは初めてで、とても感慨深い経験でした。内装の提案も任せていただき、「一部をガラス張りに」「グレーを基調とした落ち着いた空間を」など、学生が落ち着いて学びに集中できる空間づくりを心がけました。また、水戸キャンパスの共通教育棟1号館ライトコート改修では、閉鎖的だった中庭を開放的なウッドデッキに変更し、アコーディオン式の開閉窓を採用するなど、利用する学生や教職員が心地よく過ごせるよう工夫を重ねました。限られた条件の中で最善を探っていく、その過程にこそ建築の面白さや創造性を感じます。自分の提案が形となり、多くの人に使用してもらっている様子を見るたびに、大きな喜びを覚えます。



——技術職と聞くと、ハードルが高そうと感じる方もいるかもしれません。

染宮 最初は少し構えてしまうかもしれません。でも実際に働いてみると、建築や関連法規の知識はもちろん、日々の業務を通して自然とスキルや知見が広がっていくのを実感します。さらに、電気や機械を専門とする担当者から丁寧に教えていただきながら進められるので、建築以外の知識や考え方も徐々に身につけ、専門の垣根を越えて学び合う面白さを日々感じています。

——岡田さんは茨城大学に転職して7年目を迎えるそうですね。以前は、マンションやビルの総合不動産管理の大手企業に勤めていたと伺っています。民間企業と大学法人では、どのような違いがありますか？

岡田 そうですね。大きな違いは業務に対する評価でしょうか。営利目的の民間企業は、商品やサービスを提供し売上で評価されます。一方、国立大学法人では、携わった施設整備の業務が、学生の利用状況や教職員からの感想・意見を通じて、自分の目や耳で評価を確認できます。大学は教育の場だからこそ、社会的意義を感じながら責任のある業務に挑戦できる。これは国立大学法人で働く醍醐味だと思います。



平成23年度採用

茨城大学 財務部施設課
管理保全グループ

染宮 明美 ソメミヤ アケミ

——お二人を感じる、大学で働く技術職の魅力とはどんなところでしょうか。

岡田 建築と一言でいっても、計画・設計・施工・管理(監理)など幅が広いです。民間企業では業務として携われる分野は限られてしまいます。しかし国立大学法人の技術職は、外部委託するものもありますが、計画～管理(監理)の業務に深く関わっていく点が特長です。そのため、業務を通じて幅広い知識を習得することができます。私自身、前職では施工管理を中心に経験してきましたが、大学生時代に技術職の存在を把握していたら、きっと新卒で国立大学法人に応募していたと思います。それほど、やりがいと成長の幅がある職種だと思います。

染宮 大学における施設管理の仕事の魅力は、自分が手掛けた仕事の“かたち”が、キャンパス風景として残ることです。大学を歩くたびに「この建物、この階段の配色…、担当したんだな」と思い出される場所がいくつもあります。また建物をつくるというのは、形を整えるだけでなく、人が安心して快適に過ごせる空間をどう実現するかを考えることでもあります。法律や安全面を意識するのはもちろんですが、実際に使う人たちの気持ちを想像しながら進めていくことを大切にしています。先日、グラウンドの補修整備を行った際、完成直後にラグビー部の学生さんから「ありがとうございました」と直接声をかけてもらいました。そんな瞬間に、やってきてよかったと心から感じます。「ここで過ごす学生や先生にとって、より良い環境とは何だろう」。その問いを胸に設計や工事を進める時間こそ、何ものにも代えがたい充実の瞬間です。

